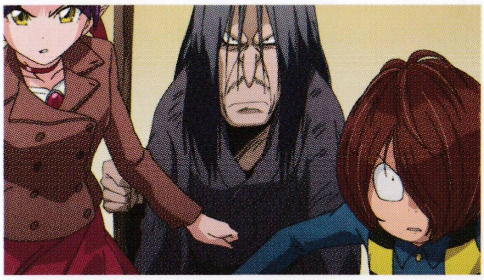
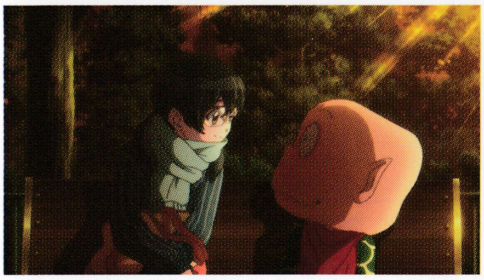
ゲゲゲの鬼太郎

8



DISC





第 87 話

貧乏神と座敷童子

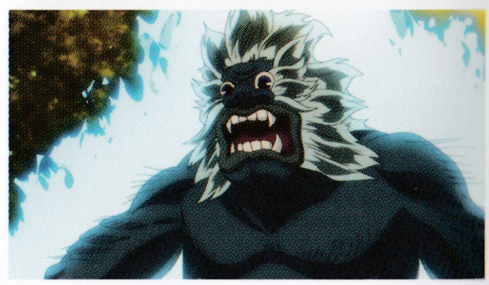
両親が喫茶店を経営しているという友人・綾の家に遊びに行ったまなは、店に居座る貧乏神を見つけてしまう。貧乏神は、自分がいるおかげでこの家の平和が保たれていると主張するが、綾は出て行くように詰め寄る。貧乏神が去った後、綾は街で不思議な子どもに出会い……!?

演出：岩井 隆央　絵コンテ：なかの★陽　脚本：井上亜樹子
作画監督：小泉 昇　美術：加藤 恵

第 88 話

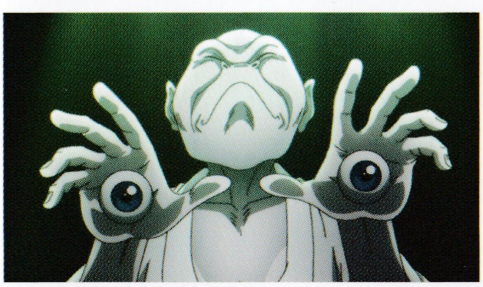
一反もめんの恋





失恋し傷心中の一反もめんのもとにねずみ男が現れ、新たに手を出した事業であるビビビハウスへの入居をもちかける。それは、妖怪と人間の男女が共同生活を送るシェアハウスだった。新しい恋に期待した一反もめんは参加を決める。果たして、一反もめんの運命の相手は現れるのか!?

演出：飛田 剛　絵コンテ：上田芳裕　脚本：市川十億衛門
作画監督：清山滋崇、信実節子　美術：加藤 恵





第 89 話

手の目の呪い

「手を盗まれてしまった」と告げる依頼人・陽子の首には、自分で自分の喉を絞めた跡が残っていた。さらに世間では不審死が連続しており、鬼太郎は被害者全員が、陽子と同じように手の目に手を盗まれたのだと気付く。果たして手の目の目的とは……!?

演出：中村明博　脚本：金月龍之介　作画監督：八島善孝　美術：加藤 恵

第 90 話

アイドル伝説 さざえ鬼

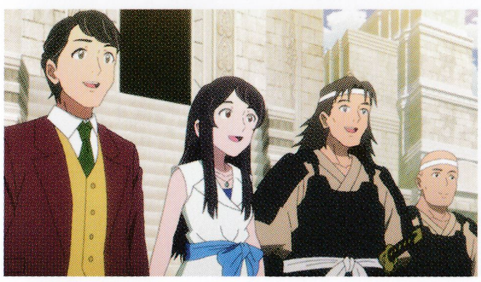




アイドルのG鬼太郎と勘違いされていた鬼太郎は、届いたファンレターの中の一通から、妖気を感じ取る。鬼太郎は手紙の主に会いに、真夜中のとある漁港に足を踏み入れた。そこで鬼太郎が目にしたものとは。そしてG鬼太郎の正体とは!?

演出：熨斗谷充孝　脚本：野村祐一　作画監督：鈴木伸一　美術：加藤 恵





第 91 話

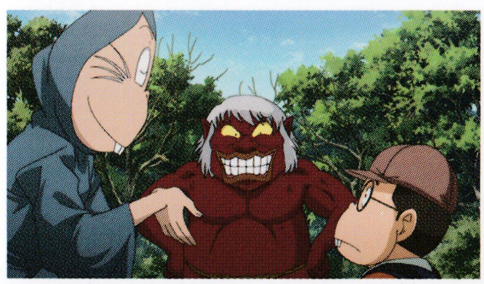
アンコールワットの霧（きり）の夜

世界的演出家の本郷から鬼太郎へ、演劇のチケットが届く。その演劇とは、鬼太郎が解決した事件を題材に、若き日の本郷が手掛けた舞台「アンコールワットの霧の夜」だった。52年前に事件は解決したはずだが、鬼太郎と再会した本郷は「事件はまだ終わっていない」と告げる。

演出：角銅博之　脚本：長谷川圭一　作画監督：太田晃博　美術：加藤 恵

第 92 話

構成作家は天邪鬼（あまのじゃく）

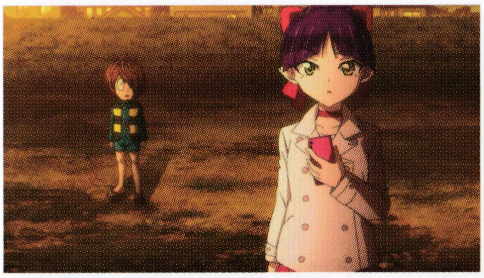




仕事で悩んでいたテレビディレクターの奥田に、ねずみ男はいいネタがあると声をかけ、天邪鬼のもとに連れていった。人の不幸が大好きな天邪鬼は、人の幸せを壊す様を撮って放送しろと脅す。はじめは内心反発していた奥田だったが、番組は高視聴率を叩き出した。

演出：内山まな　絵コンテ：真波三郎　脚本：伊達さん
作画監督：真波三郎　美術：加藤 恵

DISC





第93話

まぼろしの汽車

破壊された東京で、吸血鬼化した人々がねこ娘と目玉おやじを取り囲む。その中には吸血鬼の鬼太郎や、まなもいた。目玉おやじは意を決して、自分の命を代償にただ一度呼べるというまぼろしの汽車を呼び出す。炎の中に消滅していく目玉おやじ。汽車によってねこ娘が辿り着いた先は……!?

演出：古賀 豪　脚本：吉野弘幸　作画監督：大西陽一　美術：加藤 恵

第94話

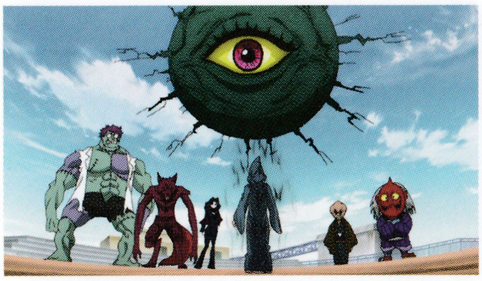
ぶらり不死見(ふじみ)温泉バスの旅

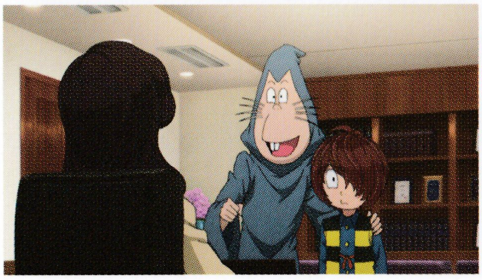




ねずみ男に代わり、まなは鬼太郎たちと共に妖怪専用の宿——不死見温泉へ出かける。温泉を満喫する鬼太郎たちだったが、突如宿を不穏な音が包み込んだ。その正体である富士のエネルギーを鎮めるため、鬼太郎とまなは富士山の洞窟に足を踏み入れる。

演出：松實 航　脚本：金月龍之介　作画監督：藤原未来夫　美術：加藤 恵





第95話

妖怪大同盟(ようかいだいどうめい)

西洋妖怪の帝王であるバックベアードが復活した。ぬらりひょんと手を組んだバックベアードは、ひとつの街を消滅させる。それをきっかけに人々の妖怪への憎悪は膨れ上がり、妖対法が成立した。人間と妖怪の衝突を避けるため、鬼太郎は総理を説得しようと決意する。

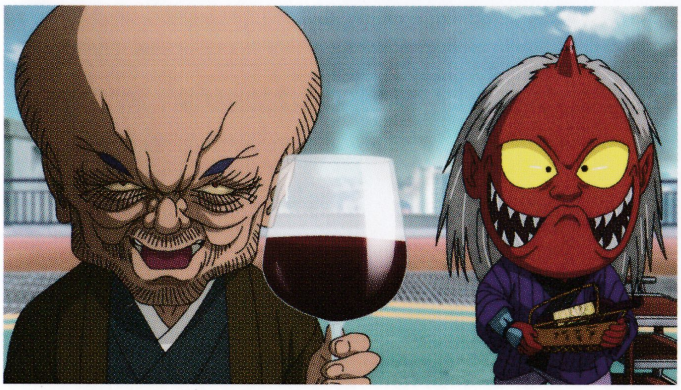
演出：竹下健一　脚本：金月龍之介　作画監督：袴田裕二　美術：加藤 恵

第 96 話

第二次妖怪大戦争

総理の攻撃により消滅した鬼太郎。閻魔大王によると、鬼太郎は異次元の地――あらざるの地にいるという。鬼太郎を探し出そうとねこ娘たちが試行錯誤する中、人間と妖怪の争いは激しくなっていく。全てはぬらりひょんの思惑通りに進んでしまうのか!?

演出：中村明博　絵コンテ：やしろ駿　脚本：大野木寛　作画監督：市川吉幸　美術：加藤 恵





第 97 話

見えてる世界が全てじゃない

零と伊吹丸の術、そしてねこ娘の命を使うことで、あらざるの地への入口は開いた。まなは鬼太郎を探し求めて、その場所を疾走する。一方、地球には臨界点を超えたバックベアードが迫りつつあった。この戦争の行きつく先とは。そして鬼太郎は戻ってくるのか!?

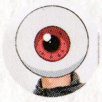
演出：小川孝治　脚本：大野木寛　作画監督：小泉 昇　美術：加藤 恵





ゲゲゲのお喋り部屋


鬼太郎役
沢城みゆき
×

目玉おやじ役
野沢雅子
×

監督
小川孝治
×

プロデューサー
永富大地

記念すべき最終回は、2つの連載コーナー「ゲゲゲのお喋り」と「ゲゲゲの部屋」が合体！　鬼太郎役の沢城みゆきさんと目玉おやじ役の野沢雅子さん、そして小川孝治監督と永富大地プロデューサーと、『ゲゲゲの鬼太郎』に新たな歴史を刻んだみなさんが勢揃い！　キャスティングの秘話や最終話に込めた想いなど、語っていただきました。

最終話を迎えた寂しさと達成感

――アフレコを終えられた現在のお気持ちをお聞かせください。

沢城みゆき（以下、沢）：鬼太郎としてずっと頑張ってきた余韻があるので、来週もまた別の敵に立ち向かわなきゃいけないような気がしています。特にぬらりひょんとの決別の仕方がなんともグレーだったので……。寂しくなる前の、まだぼんやりとした気持ちですね。

永富大地（以下、永）：ぬらりひょんはまだ生きていそうな感じですよね。

一同：（笑）

永：適当なことを言ってごめんなさい（笑）。

沢：でもそんな感じの終わり方でしたよね。命は惜しくないと言いながら、自ら命を絶ったりはしない感じ。

永：それすらもトリックかと思わせるような。

野沢雅子（以下、野）：私が鬼太郎を演じていた第１・２期に比べると、第６期は今の世の中に合わせてお話が大人になりましたよね。鬼太郎の気持ちの持ち方も。目玉おやじも割と色々なことに関わっていますよね。昔は家にいて「鬼太郎！　鬼太郎！」って言っているだけのイメージが強かったけど。

沢：今回の目玉おやじは、いつも鬼太郎の心配をしている感じがします。少し過保護なくらい（笑）。



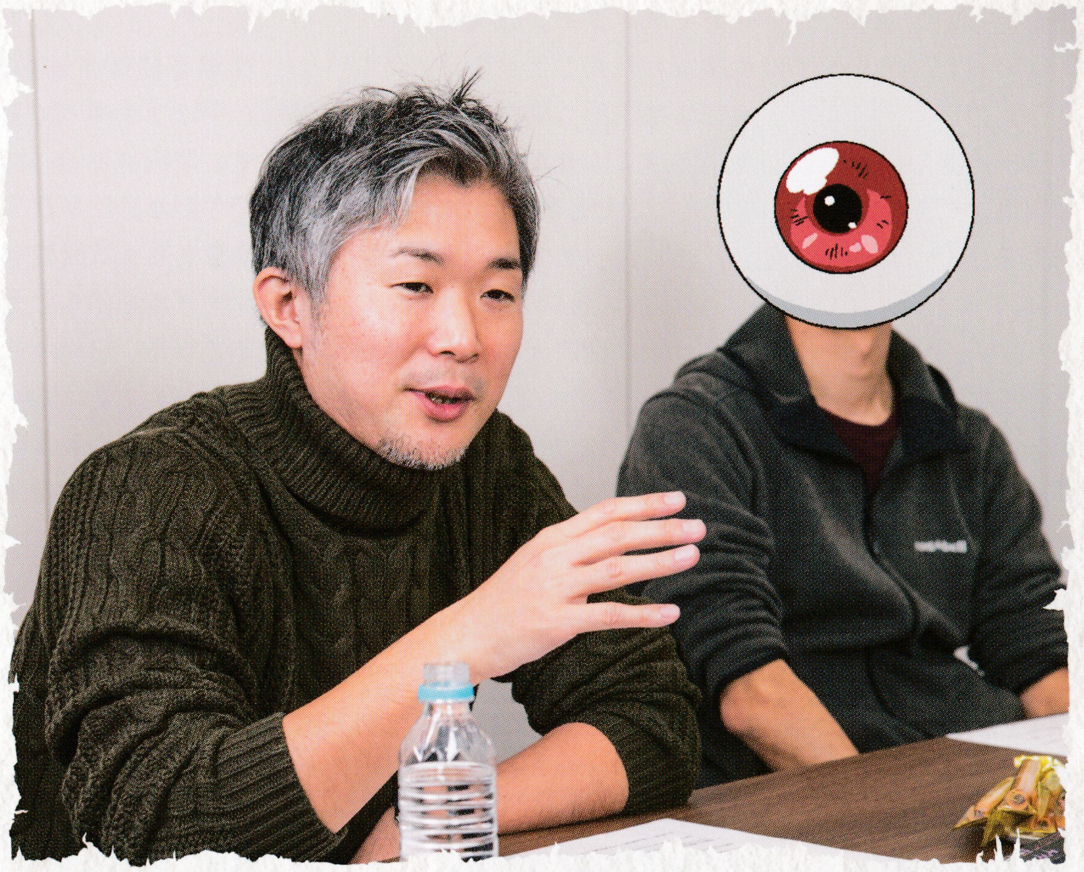
野：鬼太郎のことが可愛くてしょうがないんですよ。

小川孝治（以下、小）：アフレコは終わりましたが制作はこれからですから、まだ安心はできませんね。

永：放送が終わるまで気持ちを緩められない。

野：監督さんは大変ですよね。

永：放送終了が決まってから、順番にひとつずつ工程が終わっていっちゃうんですよね。最初に終わったの



がシナリオ、そしてコンテ、作画関連、それが終わって今度は編集、アフレコと、工程がひとつずつ終わっていくことが「終わる」と言い続けられているような感じがして、結構喪失感が強いですね。

野：そうですよね。

永：悲しくもあるけれど、最後まで走り抜いて放送ができた達成感も感じています。すべての放送が終わった後に、この第６期がどんな作品だったのかという評価が決まるので、それがまた怖くもあり、楽しみでもありますね。大げさに言うとこれから歴史の審判を受けるのだなと思っています。

――どんなラストになるのかは、最初から決められていたのでしょうか？

小：１年目の名無し編は着地点を決めて進めました。

永：そうでしたね。

小：２年目は完全にアドリブというか、探りつつシナリオを作っていきました。１年目の名無し編でねこ娘が消滅したところから地獄の四将編にパスが渡って、それが解決したら、ぬらりひょんが出てきて……という感じで。放送がどんどん延びると同時に、シナリオも自分たちでも見えなかった未開の地をどんどん拓いていって。そしてここに到着しました。

沢：最後の、対ぬらりひょんの構図だけ決まっていた感じですか？

永：それも、実は決まっていませんでした。地獄の四将編で大逆の四将がどんどん出てくる中で、彼らを牢屋から出した存在が必要になったんです。なぜか自然な流れで「あの牢屋を開けたのは、ぬらりひょん以外いないのではないか」という雰囲気になりましたね。

小：そうですね。コントロールしてそういう流れに持って行ったわけではなく、自然な流れでした。それこそ「妖怪の仕業かな」と思いましたね。

沢：すごいですね。

永：ネタっぽいけど、事実です。

――それでは、最終３話のシナリオを読んだときのご感想をお聞かせください。

沢：私は最終話のシナリオを読んだとき、「これ『ゲゲゲの鬼太郎』？」と思いましたね。『鬼太郎』は世相を映し出している作品で、最終話もものすごく、今の現実とリンクした話だと思いました。

永：実はまだ自分でも「第６期の最後はこれでよかったのだろうか？」という気持ちはありますね。役者のみなさんに演じていただいて、アニメーターに描いてもらって、監督に頑張ってもらっているのに、プロデューサーがこんなことを言ってはいけないのかもしれません。でも２年間の物語をどう締めくくるかを考えたときに、ずっと言い続けてきた「多様性を認めていこう」とか「人間と妖怪のはざまに立った鬼太郎がどう行動するのか」ということを、この最終３話で伝えることができたのか。実際に放送を観てみないとなんとも言えないなってところがありますね。

沢：でも、その最後まで考え抜く姿勢が、第６期

のお話を秀逸にしていたんだと思います。伝えたいテーマが、２年間１度も損なわれたことがないように思うんですよ。鬼太郎は毎回同じ問題と向き合ってきて、それが誰かの笑顔につながることも、泣かせてしまうこともあった。でも最終話も、誰も特別な行動をしなかったじゃないですか。鬼太郎の「まず自分の手の届く範囲の人を助ける」というすごくミニマムなことが、最終話の大きな風呂敷の中で行われただけで、ねずみ男の底力も、ねこ娘の優しさも、まなの勇敢さも、やっていることはみんな、いつもと変わらなかった。

永：確かにね。

沢：みんな特別なことはできなかったけれど、彼らはラストまで揺らがなかったですよね。

野：もう、アニメって、すべてが成長しているんですね。第６期の『鬼太郎』に出演して、それをすごく感じます。私たちが子どもの頃は、マンガやアニメは勧善懲悪の単純な内容だったんですけど、今は作る側の大人も受け取る側の子どもも成長しているから。

永：それは本当にそうだと思います。

野：私もいつも悩むところなんです。単純にやって子どもの捉え方を見たほうがいいのか、それとも大人の目線で作って、子どもに分かってもらったほうがいいのか。私の中では未だに答えは出ないんです。

沢：私は……まず作っている自分たちが楽しかったかが大事かなと思っていて……。子どもの頃って、大人から面と向かって何かを差し出されるより、大人が侃々諤々（かんかんがくがく）、ああだこうだやっていることの方に自然と興味が向いたような気がするんです。

野：なるほどね。

沢：だから私は、「せっせと演ってせっせと楽しむ」ということを、変わらずに続けていきたいです。

野：そうだね。

永：そうですね。やっぱりそれが第６期のテイストになっているのかな。

目玉おやじ＝野沢雅子誕生秘話！

――監督としては、この２年間キャストのみなさんとのやりとりはいかがでしたか？

小：いやー緊張しましたね。

沢：緊張？

野：えー？　どうして？

小：現場を統括する監督として、役者さんに不自然なセリフを喋ってもらうわけにはいかないので。常に緊張感を持って、アフレコには臨んだ２年間でしたね。

野：監督さんって大変ですね。

小：シナリオを作るときも、キャラの心情に重点を置きました。役者さんたちは特にキャラへの思い入れが強いと思うので、アフレコで指摘されることのないように入念にチェックをしましたね。

永：『鬼太郎』の役者さんはレベルがとても高いので、質問がめちゃくちゃ鋭いんですよ。各話の演出が答えられない質問は、全部監督に来る。

一同：（笑）

永：毎回、役者さんの指摘が正しいということになると、コンテやシナリオが間違っていたことになる。そうなると、だんだん役者さんのテンションが下がってしまいますからね。

沢：毎回、私が根詰めて「これはどういうことなんだ!?」って言っていたような気がします（笑）。すいません！

永：３回に１回くらいでしたけどね（笑）。でも監督を通じて役者さんとシナリオライター陣がコミュニケーションを図るのは、良いことだと思います。

野：そうそう。

永：コミュニケーションがとれると、良い作品になっていきますから。伝える人は大変ですけどね。

小：他のアニメだと惰性で収録することもあると思うんですけど、『鬼太郎』は97本のアフレコのすべてが勝負でしたね。アドリブのお芝居もやっていただいて、今振り返ると本当にありがたいです。

沢：『鬼太郎』のアフレコでは、あらためて先輩たちのすごさを実感しましたね。シナリオに遊びの部分があったほうが作品が膨らんでいくということを、島田敏さん（子泣きじじい・ぬりかべ役）、田中真弓さん（砂かけばばあ役）、山口勝平さん（一反もめん役）、古川登志夫さん（ねずみ男役）から学ばせていただきました。

永：そうですね。

沢：鬼太郎さえブレなければ、他は多少の遊びが入っても『ゲゲゲの鬼太郎』になる。だから私はのんびりした回でも、少しピリっとしていようと思いました。鬼太郎はのびのびできないキャラク

ターでしたね(笑)。
永：第６期の鬼太郎は、特にそうでしたね。
野：キャスティングもすごく良かったと思います。
永：ありがとうございます。
野：全員が自由にアドリブをやっちゃったらダメだと思うんです。若い人たちがしっかり台本通りにやってくれるから、ベテランの人たちが自由にアドリブを入れられる。「このキャスティングはいい！」って、ずっと心の中で思っていました。ある程度のベテランばかりが揃うと、遊びすぎちゃって、どこも活きなくなっちゃう。
永：ボケ合いになってしまいますからね(笑)。
野：そう！
永：キャスティングに関しては沢城さんに鬼太郎を演っていただいたこともそうですが、マコさん(野沢雅子)に目玉おやじをお願いしたのは、結構すごいことだったと思いますね。
野：オーディションでしたけどね。
沢：私もオーディションです。
永：その節はありがとうございました(笑)。本当に誰に目玉おやじをお願いするのか、滅茶苦茶悩んだんですよ。マコさんという鬼太郎を演じられていたレジェンドの役者さんに、オーディションをお願いするなんて恐縮で……。
野：『鬼太郎』のオーディションの話が来たとき、自分は砂かけばばあの役かと思ったの。そうしたら、目玉おやじだっていうから、ビックリしちゃって！
沢：そうだったんですか？
永：無理かな……と思ってオーディションをお願いしたら、快諾いただきました。そして、マコさんのオーディションテープを聞いたときに、満場一致で「これはお願いしよう！」ということになりました。
沢：そうですよね(笑)。
野：目玉おやじというと田の中さん(第１～５期の目玉おやじ役・田の中勇さん)の印象が大きくて。田の中さんみたいに「鬼太郎！」って高い声で演じたら、「高くなくていいです」と言っていただいたので、私なりの目玉おやじを演じました。
永：マコさんに目玉おやじを演じていただいた幸運は、本当に作品を色々な意味で方向づけたと感謝しています。
野：ありがとうございます。私もとってもうれしかったです。



永：僕の中ではもう、目玉おやじはマコさんです。
野：鬼太郎が成長して、お父さんになったんです。
永：なんてよくできた話なんだろう(笑)。しかも、マコさんが最初に演られた白黒の『ゲゲゲの鬼太郎』から数えて50年の節目の年に！　さらに鬼太郎は今をときめく沢城みゆきさんですよ。
沢：ときめいていますかね？（笑）
永：お２人に出演していただいた記者発表の場で、そのすごさをあらためて実感しましたね。東映アニメーションにあんな数の新聞記者が来たことは、今までにないことですよ。
沢：私たちなんか悪いことしたのかなっていうくらい、大勢の方に囲まれましたね(笑)。
一同：(笑)
永：マコさんがずっと目玉おやじのぬいぐるみを触っていらっしゃったのをよく覚えています。
野：小さくてふわっとした足が可愛くって。
沢：そうそう。マコさんのお気に入りでしたね。



――それでは野沢さんと沢城さん、２年間一緒に演じられてきた感想をお聞かせください。

野:とにかく、スタジオの雰囲気がとっても良かったですね。

沢：マコさんがおっしゃるように、とても良い雰囲気でしたね。先輩後輩が分け隔てなく、みんながニコニコ過ごせたのは、マコさんのおかげなんだと思います。

野：そんなことないわよ(首を振りながら)。

沢：若いゲストの方は「野沢雅子さんと仕事ができてうれしい」と、モチベーションが上がるし、第２期以降すべての『鬼太郎』TVシリーズに出演されている柴田秀勝さん(第６期ではヤマタノオロチ役で出演)のような大先輩たちは「久々にマコに会えてうれしい」という感じなんです。みんなの間にいつもマコさんがいてくださったようにも思いますね。

BOX8を購入してくれたみなさんに！

――最後にBlu-ray、DVDをご購入いただいた方へメッセージをお願いします。

沢：手に取っていただいてありがとうございます。観ていただくだけでもありがたいのに、手元に残してもらえることを本当にうれしく思います。みなさんも含めて第６期の“仲間”なので、一緒に並走していただいてありがとうございました。ここで仲間になったからには、第７期がどうなるかも、同じ空の下で楽しみにできたらいいなと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。

野：『ゲゲゲの鬼太郎』のように、こんなにも次へ次へと続いていく作品はないと思います。何度新しい作品ができても、その度にみなさんが観てくださるのは、『鬼太郎』が魅力のある作品だからだと思います。私も鬼太郎に負けずにまだまだ頑張りたいですね。200歳くらいまで生きたいなと思っています(笑)。

一同：(笑)

沢：目標が以前よりもさらに伸びましたね。

野：はい！　第６期の『鬼太郎』は、本当に素晴らしい作品なので友達も誘って全部観せてください。

一同：(笑)

野：全巻揃えて観ないと、この作品の本当の魅力はわかりませんからね。

永：そうですよね。ところどころ観るだけではダメです！

野：大人になってからも、一生楽しめる作品ですから！

小：本当に２年間、さまざまな想いを振り絞って作った作品ですので、今を一緒に生きるみなさんを支える力になれば幸いです。『ゲゲゲの鬼太郎』は10年ごとに進化していく作品だと思っています。最終話の最後に一瞬、“2030年”が出てきましたが、あんな感じでまた近い未来に新しい鬼太郎くんに出会えると思います。みなさん、今度はそれを一緒に楽しみにして待ちましょう。

永：SNSの時代だからこそ、スタッフやキャストだけでなくファンのみなさんも一緒になって作り上げてきた第６期だったと思います。それがBlu-ray＆DVDという形で残されるというのは、配信が盛んな時代に、とても貴重なことなんですよね。買っていただいたみなさんには、本当に感謝しています。BOXのインタビューが８本も残ったことも、とても素晴らしいことで、ありがたい機会を頂戴したと思っています。このコーナーは『ゲゲゲの鬼太郎』の歴史に残るものになったと思います。「お化けは死なない」ので、『鬼太郎』に終わりはありません。第６期を楽しんでいただきつつ、未来の『鬼太郎』にもご期待いただければと思います。





沢城みゆき

東京都出身。青二プロダクション所属。
代表作は『ルパン三世』峰不二子役（三代目）、『ＨＵＮＴＥＲ×ＨＵＮＴＥＲ』クラピカ役、『Go!プリンセスプリキュア』キュアスカーレット役、『報道ステーション』ナレーションなど。



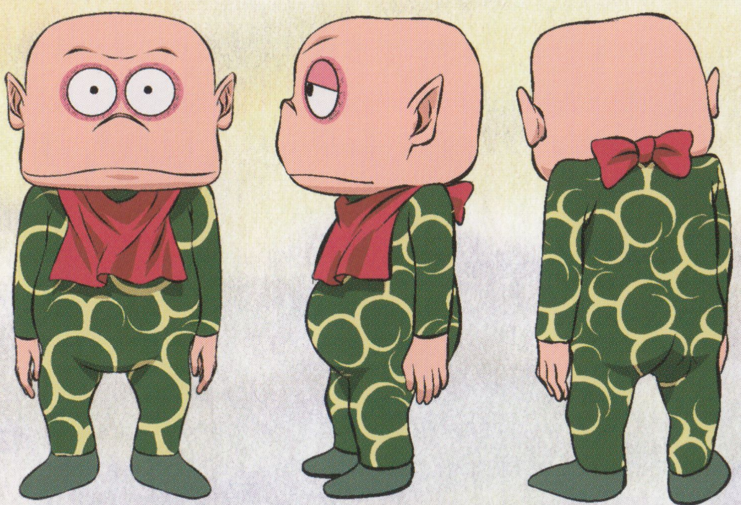
野沢雅子

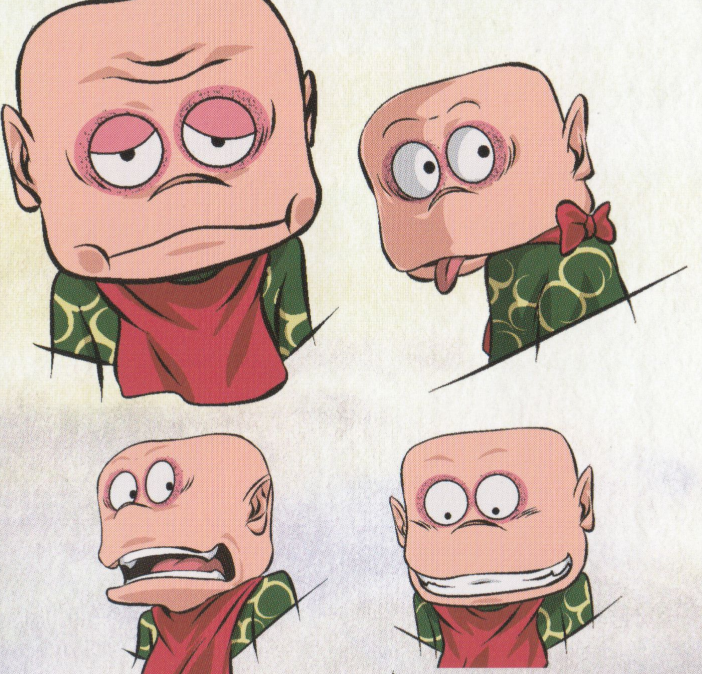
東京都出身。青二プロダクション所属。
代表作は『ドラゴンボール』シリーズ 孫悟空役、『銀河鉄道９９９』星野鉄郎役、『ど根性ガエル』ひろし役など多数。『ゲゲゲの鬼太郎』第１・２期ではゲゲゲの鬼太郎役を演じている。

キャラクター紹介

#87 座敷童子

子どもの姿をした妖怪。人の喜ぶ顔を見ることが好きで、住み着いた家に富を授けることができる。

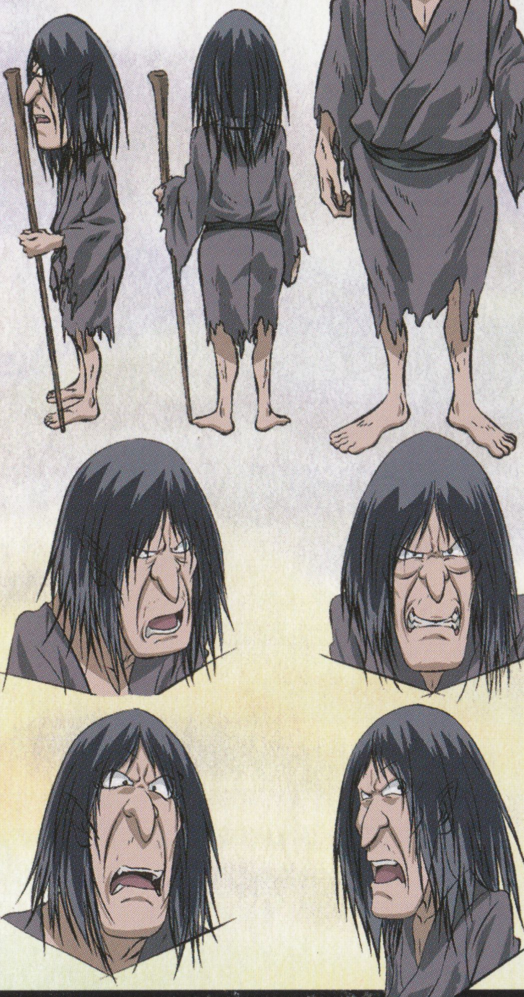




#87 貧乏神

住み着いた家を貧乏にしてしまう。その能力とは裏腹に実は優しい性格の持ち主。





#88 古籠火

石灯籠に宿る妖怪で、口から火を噴き出して攻撃する。弱点は水。ビビビハウスの周囲にある神社の石灯籠に宿っている。

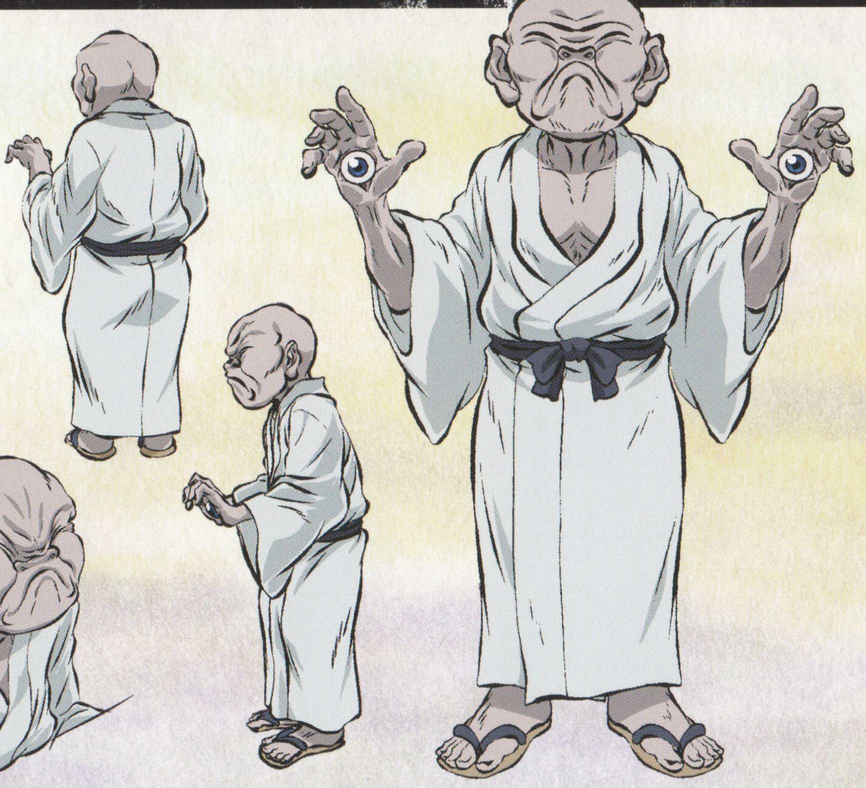




#89 手の目

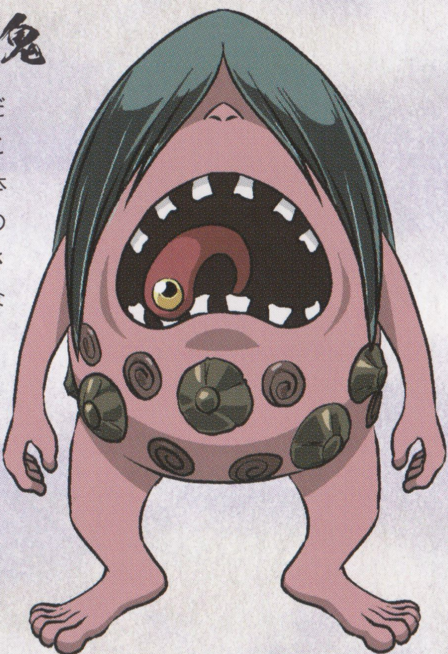
不気味な老人の姿をした妖怪。目は常に瞑（つむ）っており、その代わりに掌（てのひら）に目がある。この掌の目で睨まれると手の細胞が変化し、自分の意思とは無関係に手の目に従うようになる。





#90 さざえ鬼

元々はただのさざえ貝だが、300年以上生きたことで妖怪となった。本体は大きな口の中の、目のついた舌。細胞を変化させ、どのような姿にもなることができる。

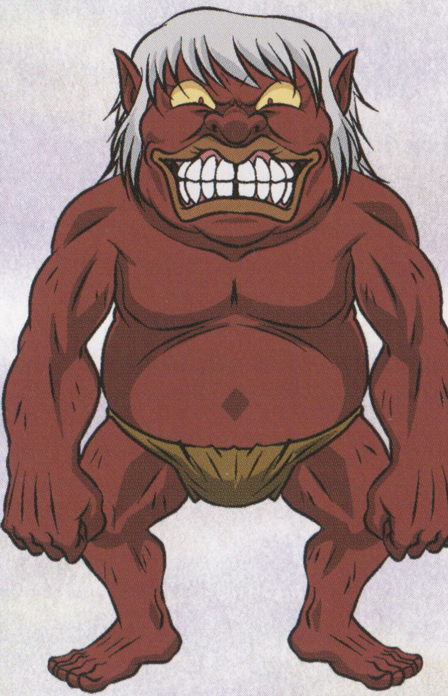


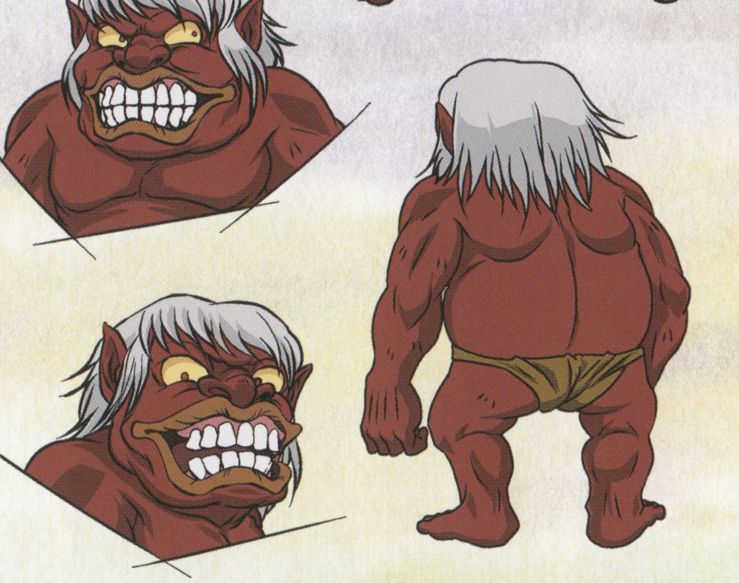


#92 天邪鬼（あまのじゃく）

人の不幸と自家製の燻製（くんせい）が大好きな妖怪。巨体を生かした肉弾戦を得意とする。朱の盆の手によって封印を解かれた。

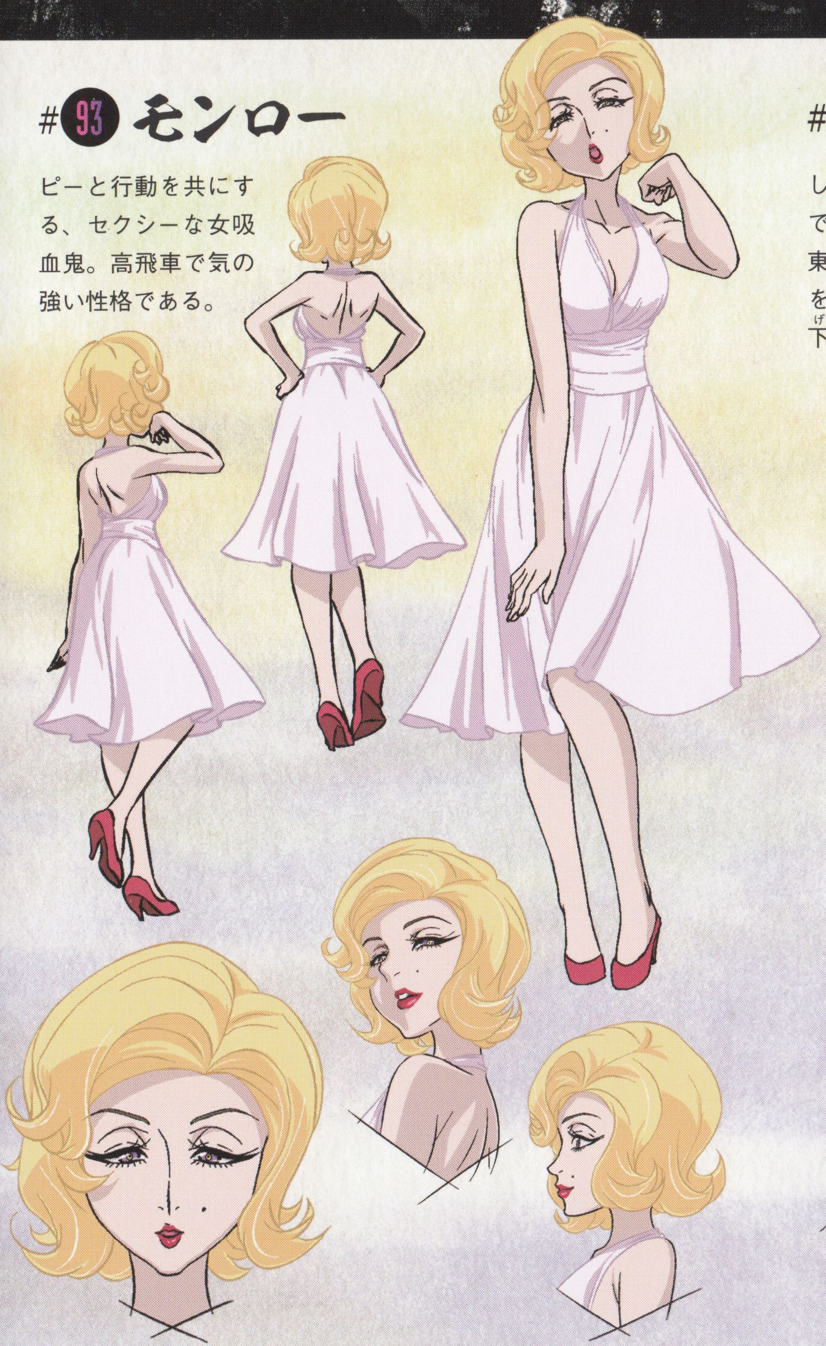






#93 モンロー

ピーと行動を共にする、セクシーな女吸血鬼。高飛車で気の強い性格である。



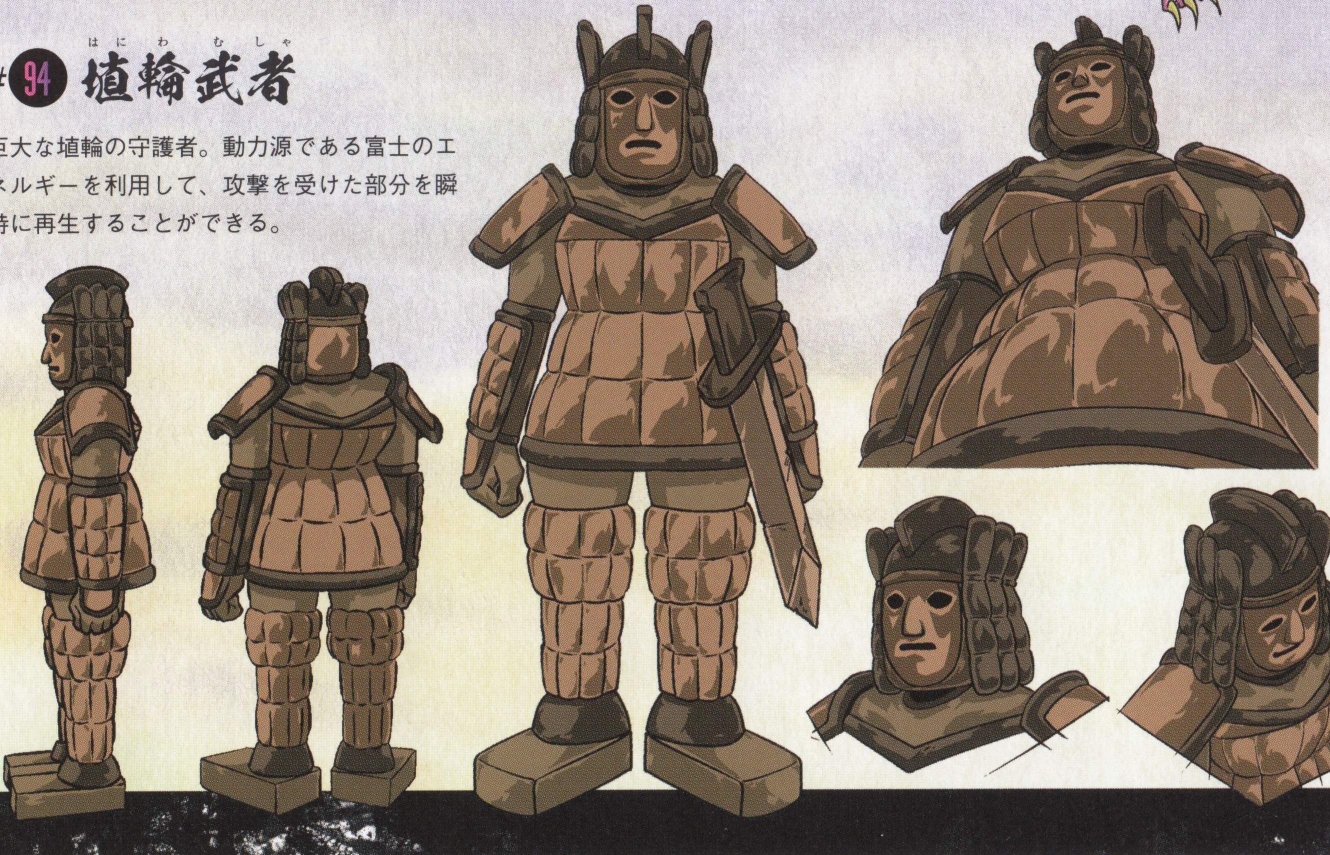
#93 吸血鬼ピー

しゃちほこのような姿に先祖の血でできたシルクハットを被っている、東洋生まれの吸血鬼。シルクハットを被せる事で相手を吸血鬼に変え、下僕にすることができる。



#94 埴輪武者

巨大な埴輪の守護者。動力源である富士のエネルギーを利用して、攻撃を受けた部分を瞬時に再生することができる。



#94 寝肥り

その名の通りとても太った妖怪。富士山にある温泉宿の女将を150年務めている。荒ぶる富士のエネルギーを数年ごとに鎮める役目を持つ。





#95 邪魅

毛で覆われた身体と、大きな口をもつ妖怪。妖対法を施行した人間を憎んでいる。裏で朱の盆と通じてゲゲゲの森の住人たちを扇動し、戦争の拡大を促した。



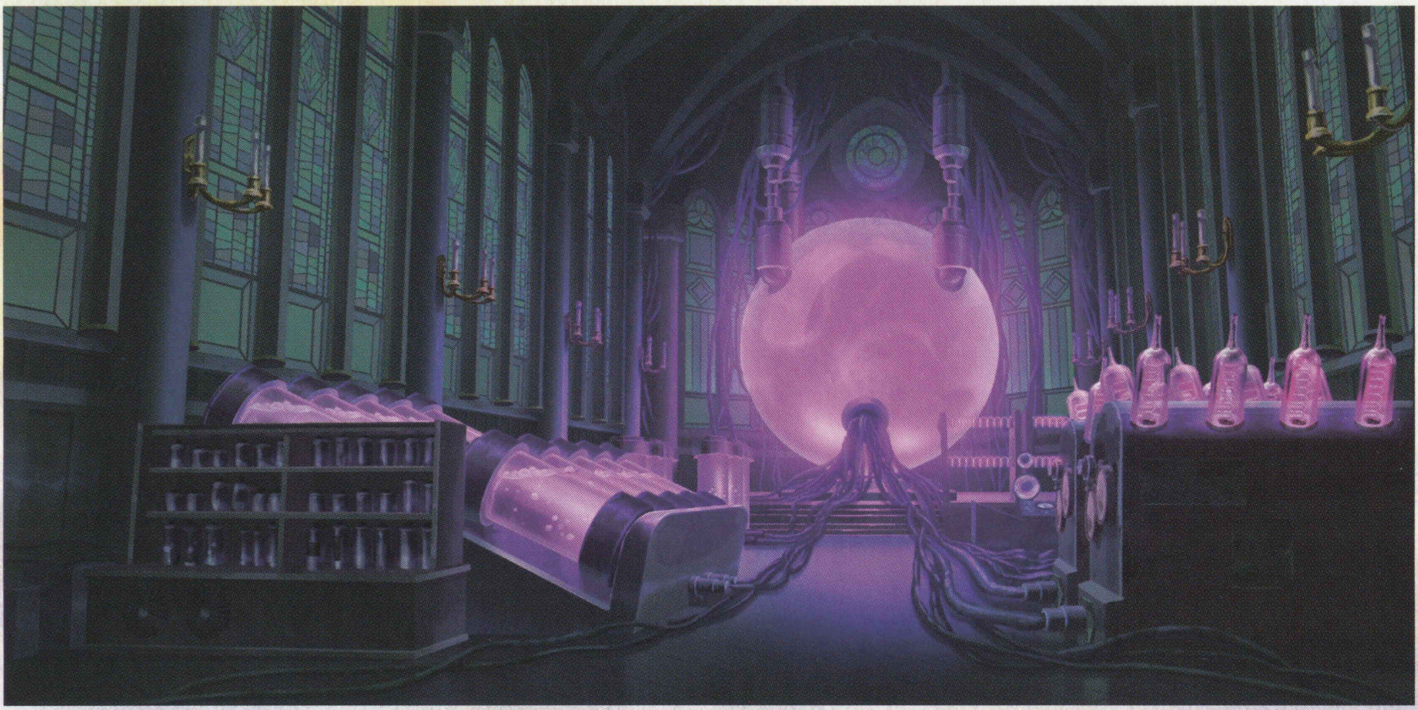


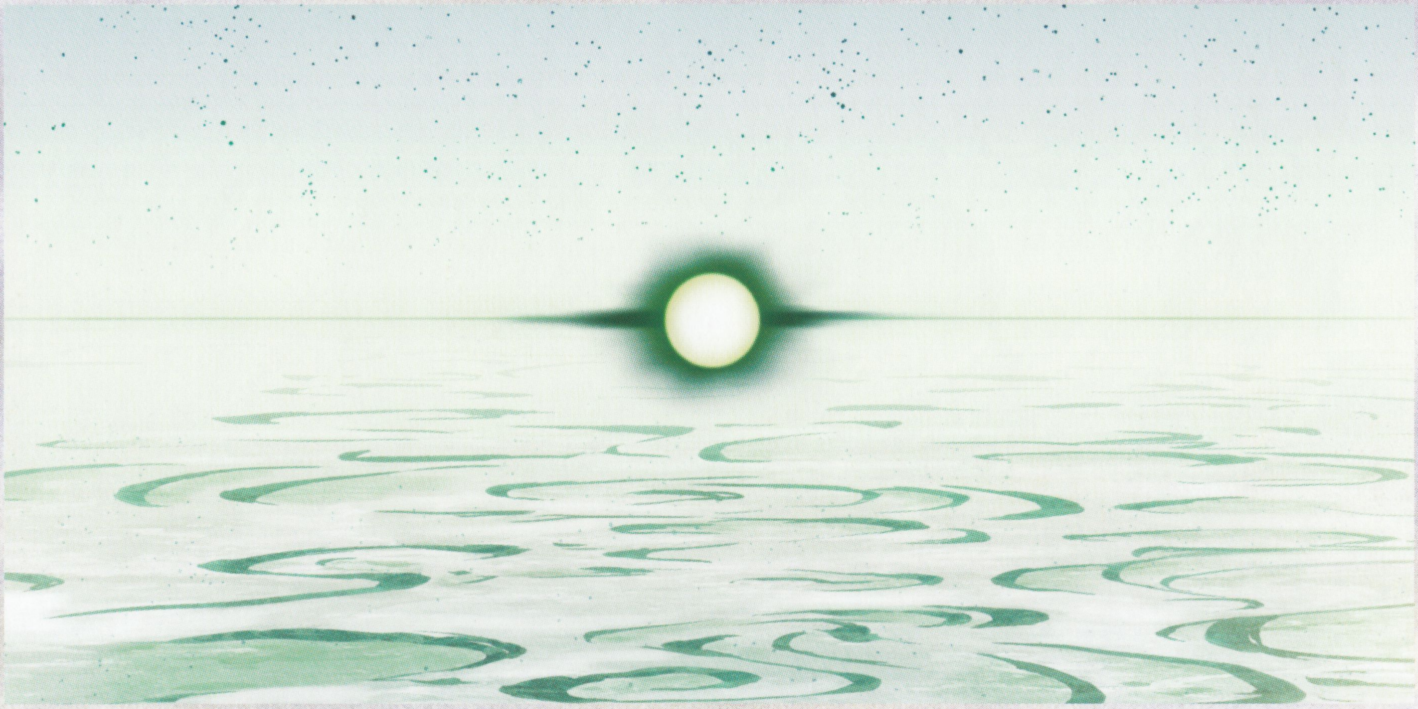
#96 暴走したバックベアード

ぬらりひょんによって天敵である聖なるものを飲まされ、肥大化したバックベアード。宇宙にて聖なる力を抑え込むも、臨界点を突破し爆発寸前の暴走状態となった。



美術ボード

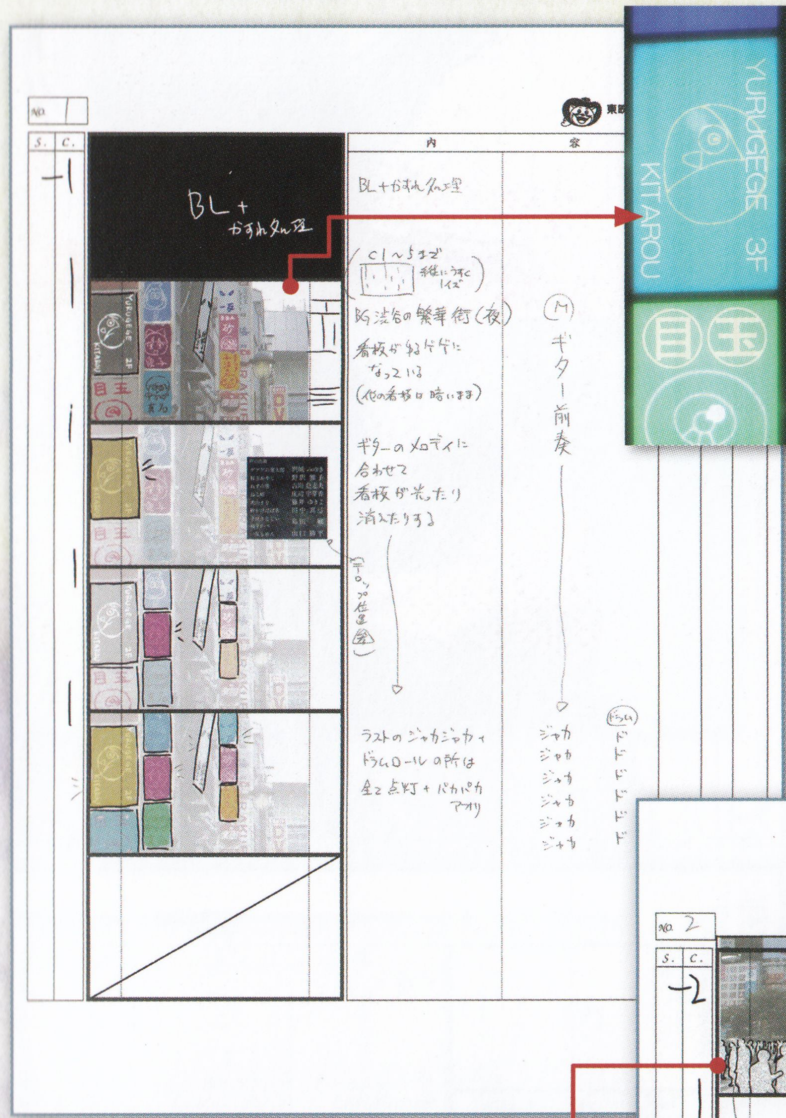


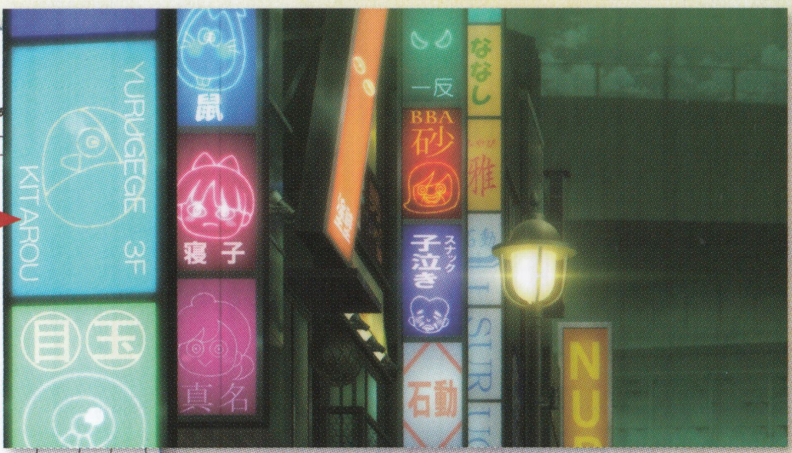




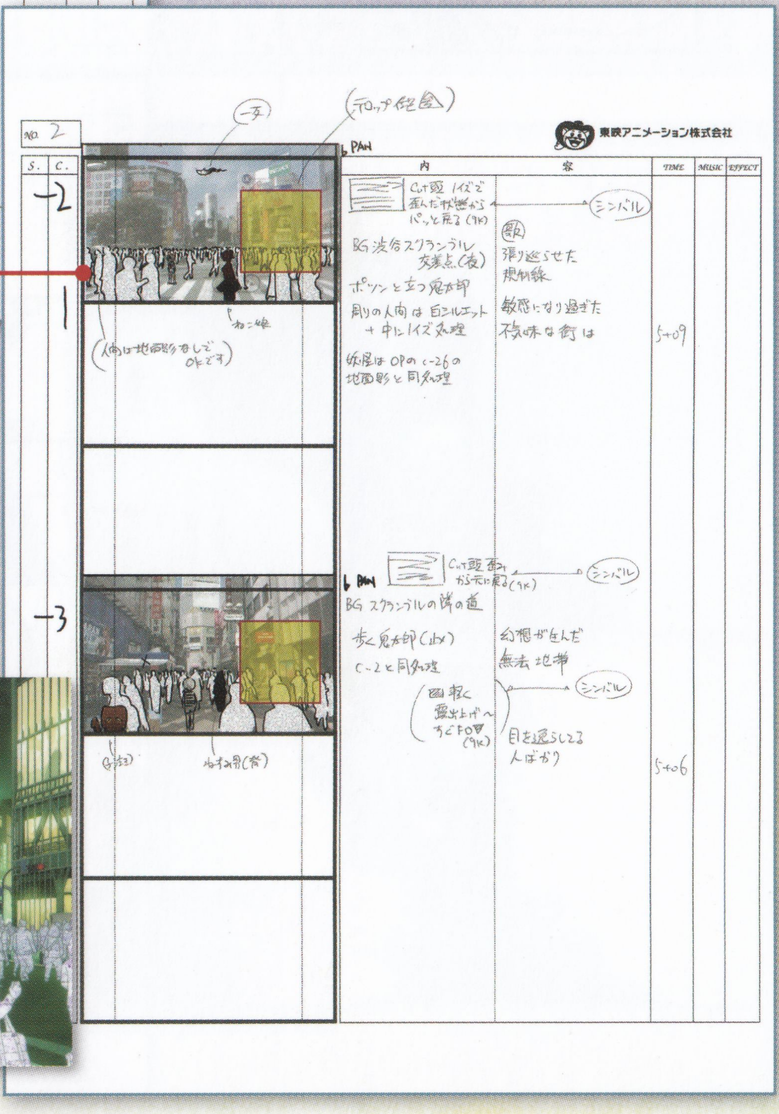


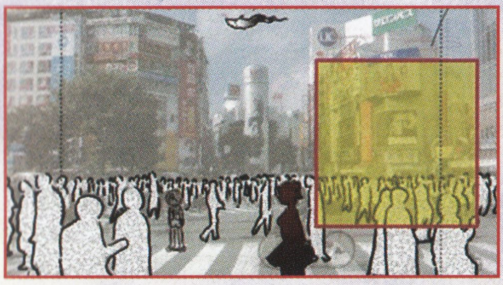
第8クールエンディング絵コンテ



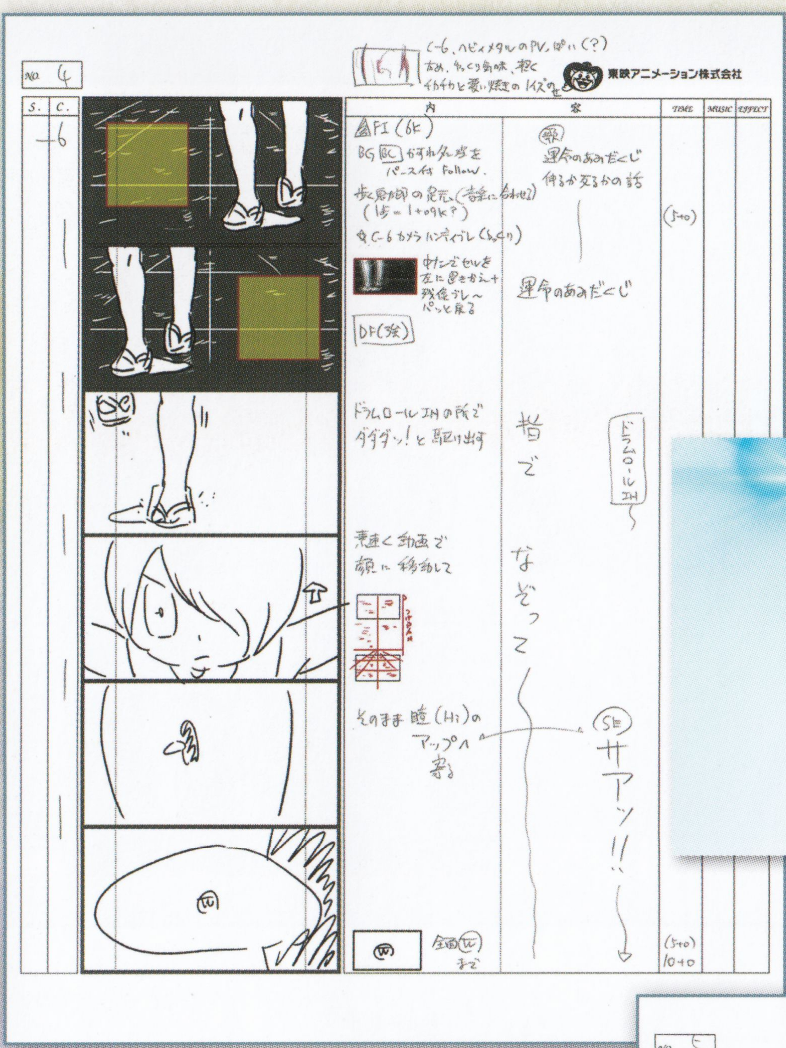


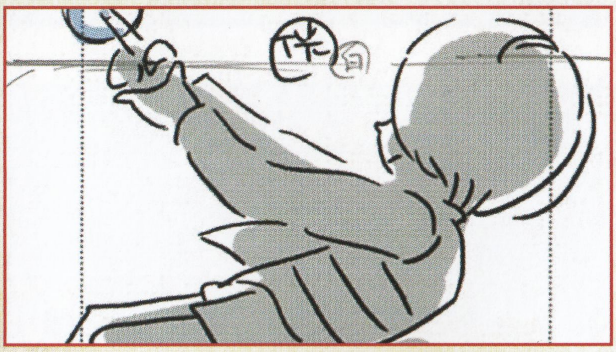




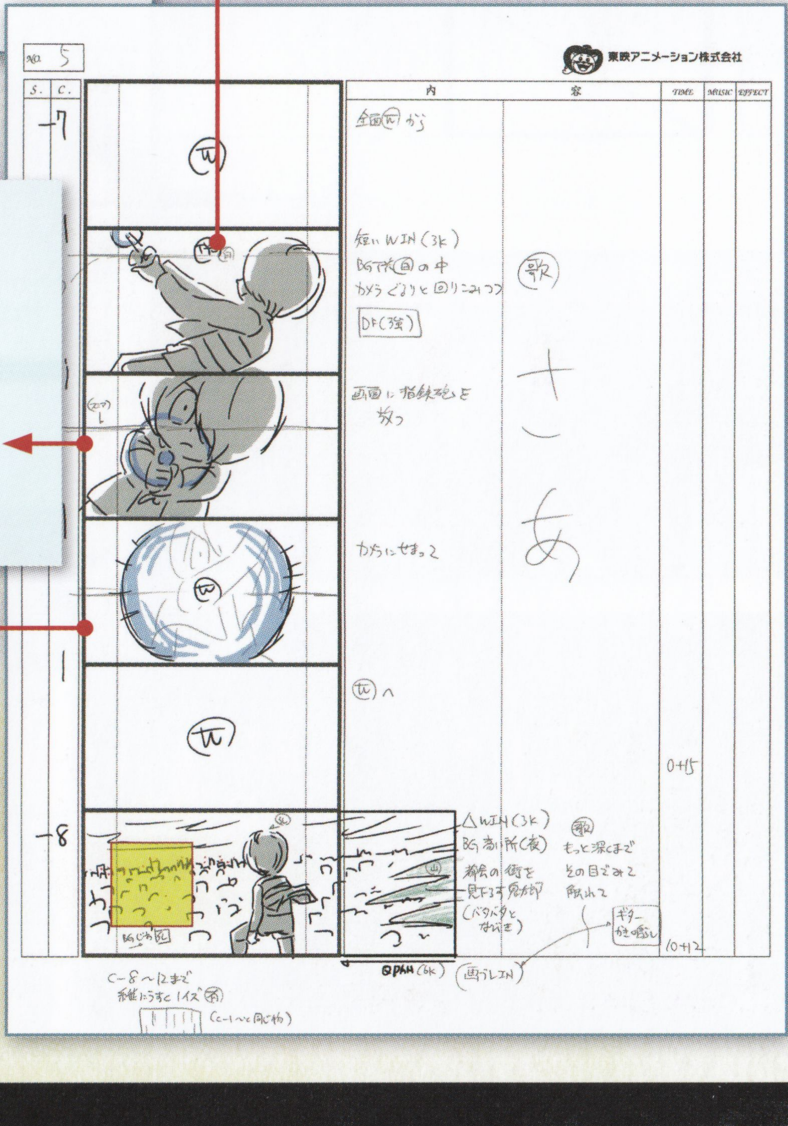





No. 4
東映アニメーション株式会社
S. C.
内
容
TIME
MUSIC
EFFECT
-6
BG BL かすれ気味を
パース付 Follow.
運命のあみだくじ
DF(弱)
運命のあみだくじ
ドラムロールINの所で
ダダダッ!と駆け出す
皆
で
な
ぞ
っ
て
ドラムロールIN
素早く動画で
顔に移動して
そのまま瞳(H)の
アップへ
寄る
SE
サアッ!!
(5+0)
10+0

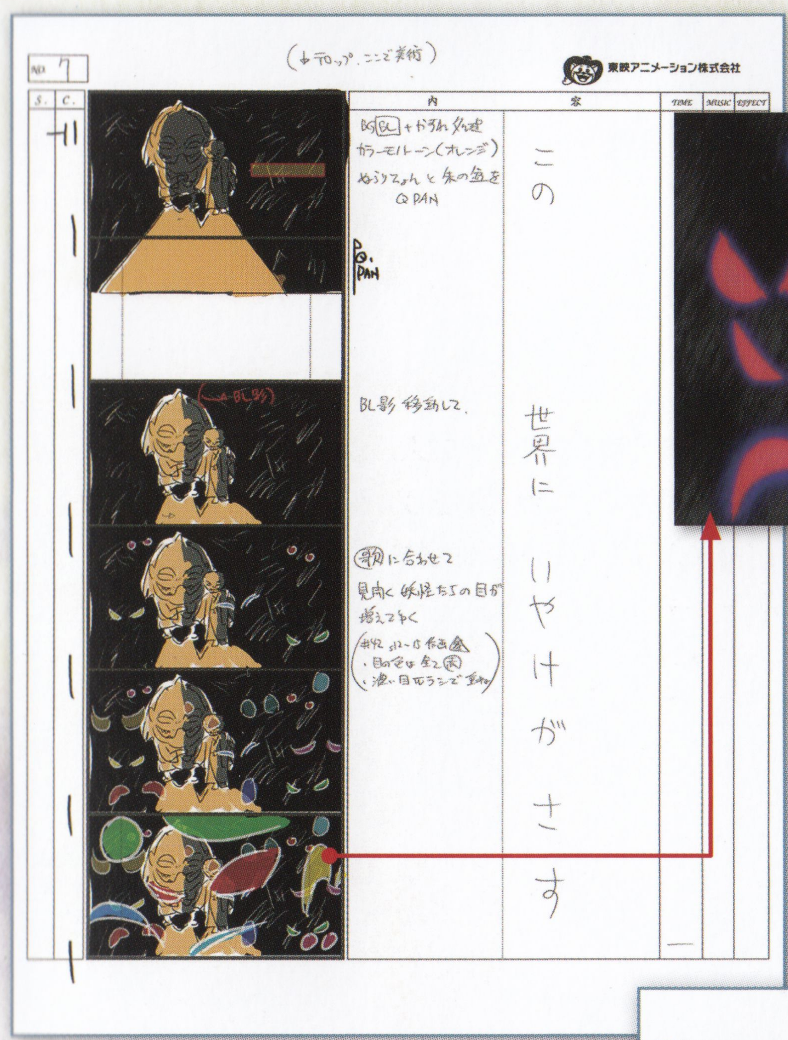




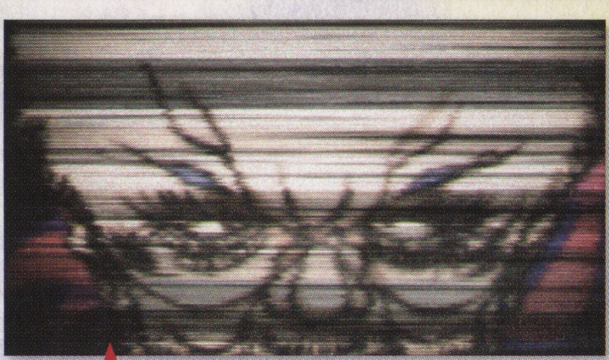

No. 5
東映アニメーション株式会社
S. C.
内
容
TIME
MUSIC
EFFECT
-7
短いW.IN(3k)
DF(弱)
歌
画面に指鉄砲を
放つ
さ
あ
カメラにせまって
0+15
-8
もっと深くまで
10+12

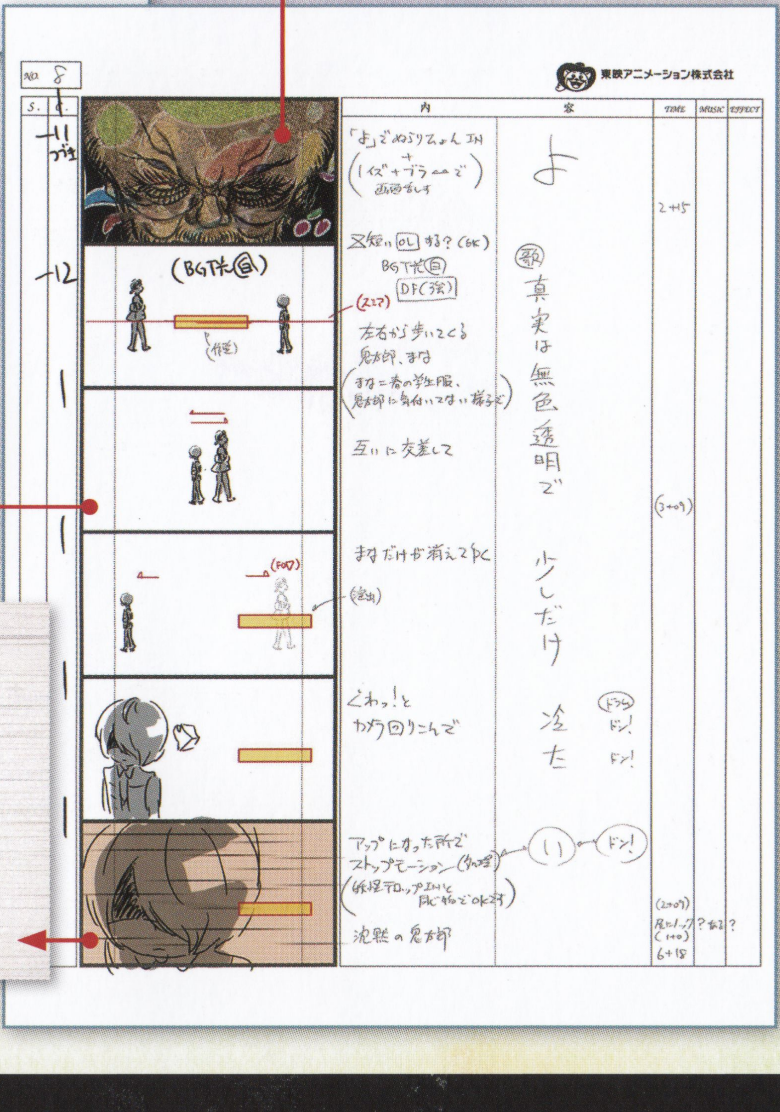





(↓テロップ、ここで美術)
No. 7
東映アニメーション株式会社
S. C. 内容 TIME MUSIC EFFECT
BG BL＋かすれ処理
カラーモノトーン(オレンジ)
ぬらりひょんと朱の盆を
Q PAN
BL影 移動して
歌に合わせて
見開く妖怪たちの目が
増えてゆく
この
世界に
いやけがさす






No. 8
東映アニメーション株式会社
S. C. 内容 TIME MUSIC EFFECT
「よ」でぬらりひょんIN
よ
2＋15
-12
(BG T.U.)
互いに交差して
真実は無色透明で
まなだけが消えてゆく
少しだけ
ぐわっ!と
カメラ回りこんで
冷た
ドン!
ドン!
い
ドン!
沈黙の鬼太郎
6＋18







BIXA-9068/BIBA-9078